

I 第34週の発生動向 (2008/8/18~2008/8/24)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。(注:警報開始基準は2人/定点、終息基準値は0.1人/定点です)。
2. ヘルパンギーナについては、弘前保健所管内において第31週から、むつ保健所管内では、第30週から**警報**が続いています。

II 第34週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数												
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	インフルエンザ	小児科	内科	眼科	基幹						
(85) インフルエンザ														0																		
(74) RSウイルス感染症					2	0.22							2	0.05	0																	
(75) 咽頭結膜熱	3	0.33	2	0.22					3	0.50	7	1.75	15	0.36	-11						3	0.38										
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.11	7	0.78	1	0.11	3	0.60	3	0.50	3	0.75	18	0.43	4							1	0.13									
(77) 感染性胃腸炎	13	1.44	4	0.44	6	0.67	2	0.40	14	2.33	20	5.00	59	1.40	14	4	4.00	9	1.13													
(78) 水痘	6	0.67	5	0.56	3	0.33	8	1.60	2	0.33			24	0.57	-28						6	0.75										
(79) 手足口病	2	0.22	18	2.00	11	1.22	2	0.40	4	0.67	1	0.25	38	0.90	9						2	0.25										
(80) 伝染性紅斑											1	0.25	1	0.02	-5																	
(81) 突発性発しん	5	0.56	6	0.67	5	0.56	1	0.20	3	0.50	6	1.50	26	0.62	-2	1	1.00	4	0.50													
(82) 百日咳															-2																	
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0																
(83) ヘルパンギーナ	36	4.00	38	4.22	5	0.56	3	0.60	6	1.00	17	4.25	105	2.50	-59	2	2.00	34	4.25													
(73) 麻疹	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0																
(84) 流行性耳下腺炎	4	0.44	1	0.11	1	0.11	1	0.20	1	0.17			8	0.19	-1						4	0.50										
(86) 急性出血性結膜炎															0																	
(87) 流行性角結膜炎	2	1.00					3	3.00					5	0.45	4						2	1.00										
(95) マイコプラズマ肺炎			4	4.00	3	3.00					2	2.00	9	1.50	0																	

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」:患者発生数0

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 八戸2人、五所川原2人、青森市1人 (20年計:328人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 八戸1人 (20年計:12人)

感染症の惑

後天性免疫不全症候群

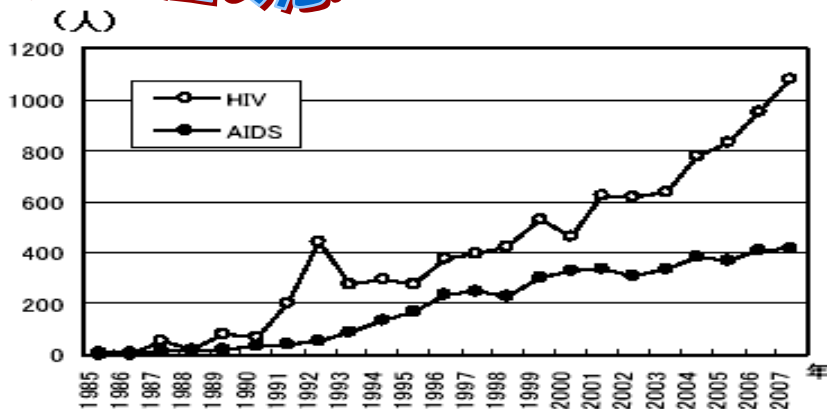


図 HIV感染者及びAIDS患者の年次推移

(統計データ:厚生労働省エイズ動向委員会)

表 青森県における届出数

(2004年-2008年)

2008年(第34週現在)	4人
2007年	4人
2006年	6人
2005年	9人
2004年	4人

厚労省は、2008年4月~6月の国内HIV感染者が、四半期単位で過去2番目に多い276人であることを発表しました。2007年までの国内のHIV感染者(感染しているが、発症していない)及びAIDS患者の年次推移についても、年々**増加傾向**にあり(図)、同年の感染経路内訳では、男性同性間の性的接触による感染例が690人(119人増)と著しく増加しているということを公表しています。本県では、8月24日現在、4人の届出数があります(表)。本疾患の治療およびその対策については、多剤併用療法の導入により死亡率が激減しています。本疾患は、発症前治療の開始が重要であることから、早期発見のため**積極的に検査を受けることをお勧めします**。各保健所が相談窓口となっています。